

学習ポイント 1

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

慣用句は、言葉の組合せがまとまって特別な意味を表す言い回しです。体の動きの説明と慣用的な意味を区別し、人物の気持ちや前後の出来事を手がかりに読み取りましょう。意味を選ぶ問題だけでなく、助詞の使い分け、似た表現の比較、短い記述にも取り組みます。例文・問題文はすべてオリジナルです。

目標 慣用句を一まとまりで捉え、文字どおりの意味と区別する。／助詞・漢字・活用に気を付け、文中で適切に使う。／人物の状況や心情を読み、選択や説明の根拠を示す。

1 一まとまりの意味で読む

慣用句の意味は、使われている語を一つずつ説明するだけでは分かりません。前後の文から、実際の体の動きなのか、それにたとえた別の意味なのかを判断します。短く言い換えた表現を文に戻して、意味が通るか確かめましょう。同じ言葉の並びでも、場面によって文字どおりの意味になることがあります。

例1 目を通す：全体を一通り読む。図書委員は掲示するお知らせに目を通し、日付を確かめた。

例2 耳を傾ける：相手の話などを注意して聞く。討論では、反対意見にも耳を傾けて根拠を確かめた。

例3 口を開く：発言を始める意味にも、実際に口を開ける意味にもなる。
「長い沈黙の後で口を開いた」は前者。

2 体の部分と表す内容を結び付ける

体の部分を含む慣用句には、気持ち・能力・人間関係などを表すものがあります。イメージは記憶の助けになりますが、自由に漢字や動詞を取り替えることはできません。「どんな状態をたどっているか」を説明した後、決まった形で声に出して覚えます。似た体の部分が出てくる語ほど、意味を混同しないようにしましょう。

例1 頭を抱える：解決の難しい問題に悩む。展示物が会場に入らず、担当者は頭を抱えた。

例2 肩を並べる：同じ程度の地位や力になる。練習を続け、新人が先輩と肩を並べる実力を付けた。

例3 胸を張る：自信や誇りをもった態度を示す。自分たちで修理を終えた生徒は、胸を張って成果を報告した。

学習ポイント 2

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

3 助詞と文の主語を確かめる

助詞が変わると、文の組立てや表す内容が変わることがあります。「が」か「を」かだけを機械的に覚えず、誰のどんな状態を述べるのか、誰が行動するのかを考えます。空欄補充では、空欄の前後まで読み、答えを入れた文を最後に読み直しましょう。活用して使う場合も、慣用句のまとまりを崩さないようにします。

例1 腹が立つ／腹を立てる：「約束を破られて腹が立った」「彼は約束を破った相手に腹を立てた」。どちらも怒りを表すが、文の形が異なる。

例2 目が届く／目を配る：「入口まで係の目が届く」は注意が及ぶこと。
「係が各席に目を配る」は注意を向ける行動を表す。

例3 手を引く：関わっていたことから退く。「運営から手を引いた」では、単に人の手を引っ張ったのではない。

4 似た形を意味で読み分ける

同じ「気」を使っている、表す感情は同じではありません。「ない」があるから悪い意味だと決め付けず、慣用句全体で意味を確かめます。意味を反対に覚えやすい語は、正しい使用場面と組み合わせて整理しましょう。辞書の説明と例文を併せて読むと、どのような相手・出来事に使うかが分かります。

例1 気が置けない：遠慮せず、打ち解けて付き合える。「気が置けない幼なじみとは、失敗した話も笑って話せる」。

例2 気が気でない：心配で落ち着かない。「預かった大切な資料が見付からず、気が気でない」。

例3 気が進まない：積極的にそうしたいと思えない。「内容をよく知らないまま賛成するのは気が進まない」。

学習ポイント 3

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

5 まとまりを崩さず言い換える

慣用句を言い換えるときは、文の主語や時制に合う形に直します。意味が近くても、後ろに続く語との相性が異なることがあります。書き換えた文が自然につながるかまで確認しましょう。表記に迷ったら辞書で確認し、漢字の形だけを根拠に意味を決めないようにします。

例1 的を射る：要点を正確に捉える。「その質問は的を射ている」は、核心を捉えた質問だという評価。

例2 要領を得る：大事な点をつかむ。「説明が要領を得ない」は、話の肝心なところがはっきりしないこと。

例3 目鼻が付く：物事の見通しが立つ。「調査の目鼻が付いた」なら、完成までの方向が見えたのであって、必ずしも完成してはいない。

6 出来事を根拠に心情を説明する

心情を説明する問題では、「うれしい」「悲しい」だけで終わらせず、何を理由にその気持ちになったのか書きます。慣用句は、期待・誇り・不安などの違いを細かく表せます。自分で例文を作るときも、言葉を置くだけでなく、意味を判断できる出来事を入れます。解答例と表現が違ってても、必要な意味が伝われば正解になります。

例1 腕を振るう：得意な技能を十分に発揮する。料理の得意な姉が、地域の交流会で腕を振るった。

例2 首を長くする：期待しながら待つ。共同制作した本が印刷されて届く日を、皆で首を長くして待っている。

例3 鼻が高い：誇らしく思う。妹の作品が町のポスターに選ばれ、兄は鼻が高い。相手を見下す意味が必ず含まれるわけではない。

使い方と参考資料

本教材の対象と採点について

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順で取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

読み・語彙は小学校～中学校の既習事項を広く復習し、書き取りには高校受験対策の語も含めます。「中3」は利用の目安であり、各語が全国共通の中3新出漢字という意味ではありません。

書く欄は1マス9mm、罫線は1行10mmです。字数指定がない場合、余ったマスは空けて構いません。字数指定のあるマス目では、句読点も1マスに1字ずつ書きなさい。

本教材では、学校での学習を想定した標準的な読み・表記を練習します。辞書にある別読・異表記をすべて許容解とするものではありません。送り仮名の許容形や記述の言い換えは、解答解説の基準に従います。手書きの字形は、同じ漢字と判断できるかを確認してください。

設問・例文は、本教材のために作成したオリジナルです。出題頻度の統計や特定地域の入試傾向を示す教材ではありません。参考資料の例文・設問は転載していません。共通する語句は、別の文脈や出題形式で繰り返し確認する総復習として配置しています。

1 文部科学省 中学校学習指導要領 平成29年告示 国語

語彙を豊かにし、文脈に即して言葉を用いる学習と漢字学習の範囲を確認。中学3年の新出漢字一覧とは位置付けていない。

2 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 言葉について

慣用表現の意味・用例と、送り仮名や類義語の扱いを確認。

3 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 同訓異義 かたい

「口が堅い」の表記を確認。

4 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 同訓異義 いる

「的を射る」の漢字と用法を確認。「的を得る」を一律の誤りとする設問は置いていない。

5 小学館 デジタル大辞泉 気が置けない コトバンク掲載

遠慮が不要な親しい関係を表す意味を確認。

参考資料 続き

語義と学習範囲の確認

6 小学館 デジタル大辞泉 二の足を踏む コトバンク掲載

ためらって行動に移れない意味を確認。

7 小学館 デジタル大辞泉 口が堅い コトバンク掲載

口外しないという意味と、「口が重い」と比較する観点を確認。

8 小学館 デジタル大辞泉 かたい コトバンク掲載

「堅い」と「固い」の使い分け、および「固い」の幅広い用法を確認。問8では両方を認める。

資料確認日 2026年10月8日。資料名を選ぶと参照ページが開きます。